

〈6〉結婚観・子育て観

結果のポイント

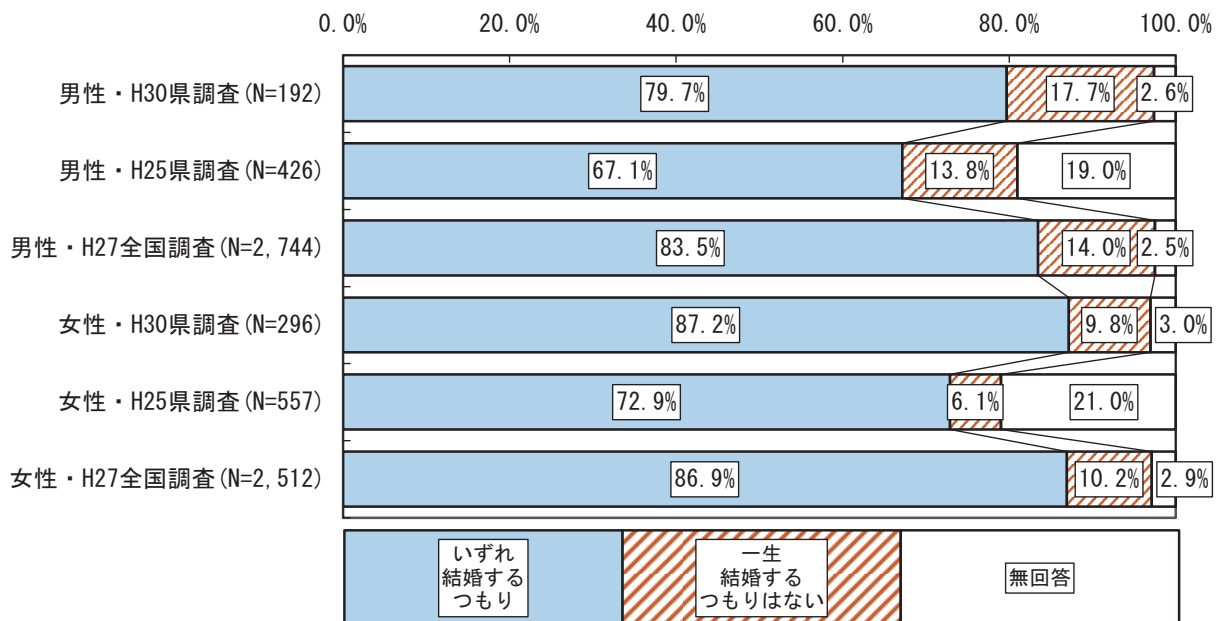
- 独身者の結婚意欲がある人の割合は、全国の水準とほぼ同程度
- 独身でいる理由の1位は男女とも「適切な相手にまだめぐり会わないから」だが、女性が結婚相手に「経済力」を求める割合は、全国平均より10ポイント以上高い
- 夫婦調査では、結婚を決めたきっかけの第1位は「年齢的に適切な時期だと思ったから」だが、夫婦の約9割が、結婚してよかったと思っている

① 独身者の結婚意欲

結婚経験のない20～39歳の、結婚意欲をみると、男性では「いずれ結婚するつもり」が79.7%となり、前回調査に比べて、12.6ポイント上昇している。女性では「いずれ結婚するつもり」が87.2%となっており、前回調査に比べて、14.3ポイント上昇している。

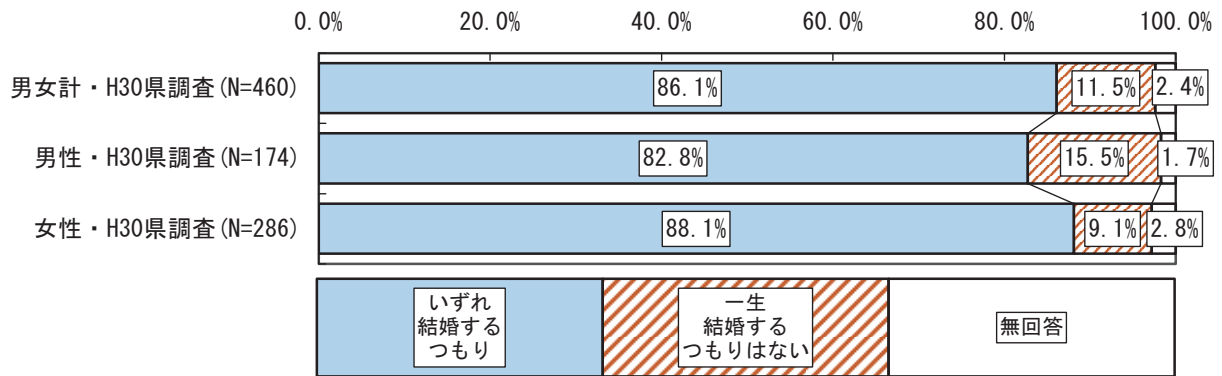
男女ともに、「いずれ結婚するつもり」の割合は全国と比べほぼ同程度であり、若年層をみても結婚意欲は高い。

【図表6-1-1 いずれ結婚しようとする未婚者の割合】



※20～39歳の結婚経験のない未婚者

【図表6-1-2 いずれは結婚しようとする未婚者の割合】（18～34歳の結婚経験のない未婚者）



※35歳未満の結婚経験のない未婚者（性別不明を除く）

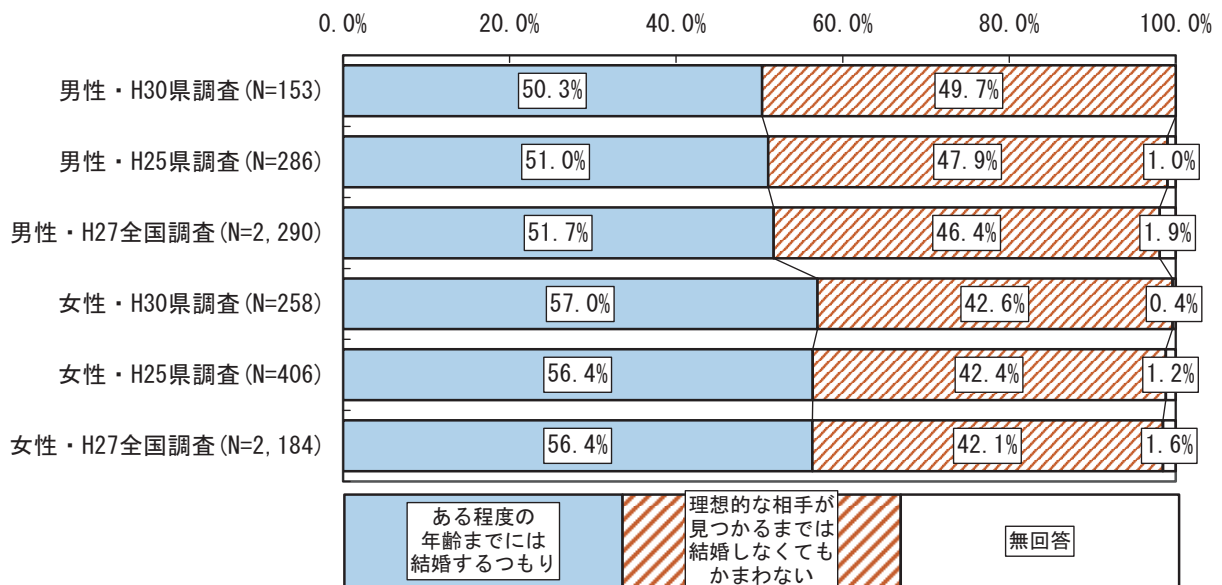
② 独身者の結婚時期についての考え

結婚経験のない20～39歳の、結婚時期についての考えをみると、男性では「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が50.3%となっており、前回調査に比べて、回答の割合に大きな変化はない。

女性では「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が57.0%となっており、前回調査に比べて大きな差はない。

男女ともに、すべての回答結果について、全国調査の結果とほぼ同程度になっている。

【図表6-2-1 結婚時期についての考え】

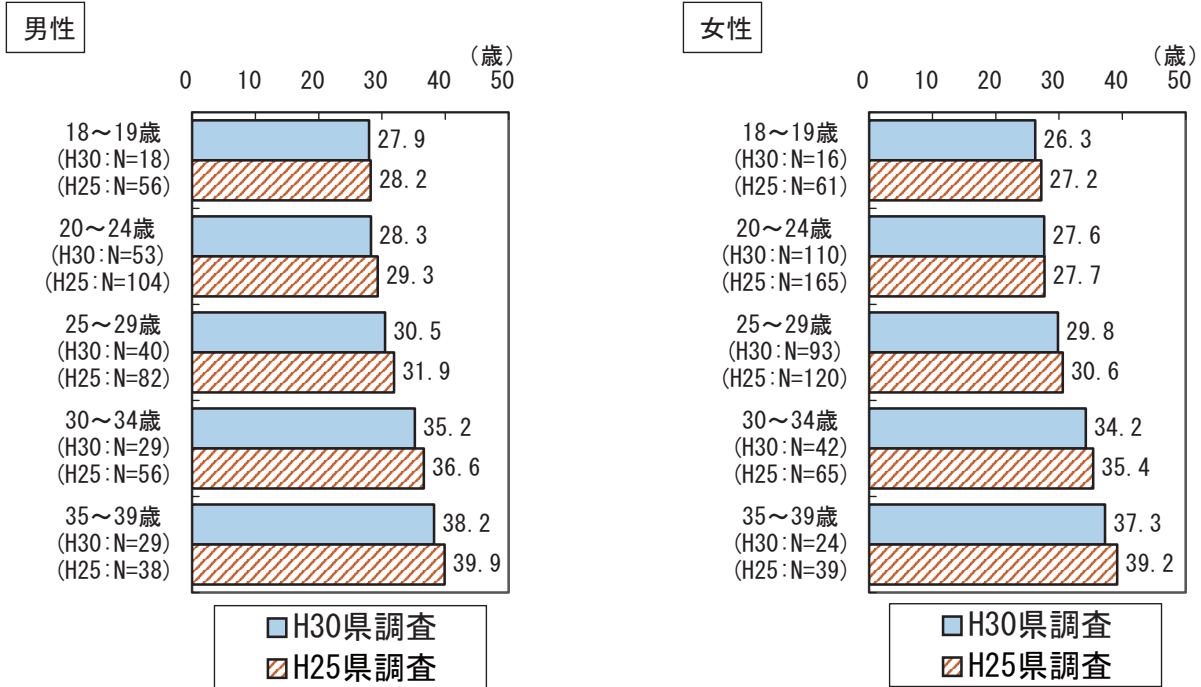


※いずれ結婚するつもりの方の20～39歳の結婚経験のない未婚者

③ 独身者の希望結婚年齢

各年代の独身者が希望する結婚年齢の平均をみると、前回調査の結果に比べて、男女ともにすべての年代で低下している。

【図表6-3-1 希望結婚年齢】



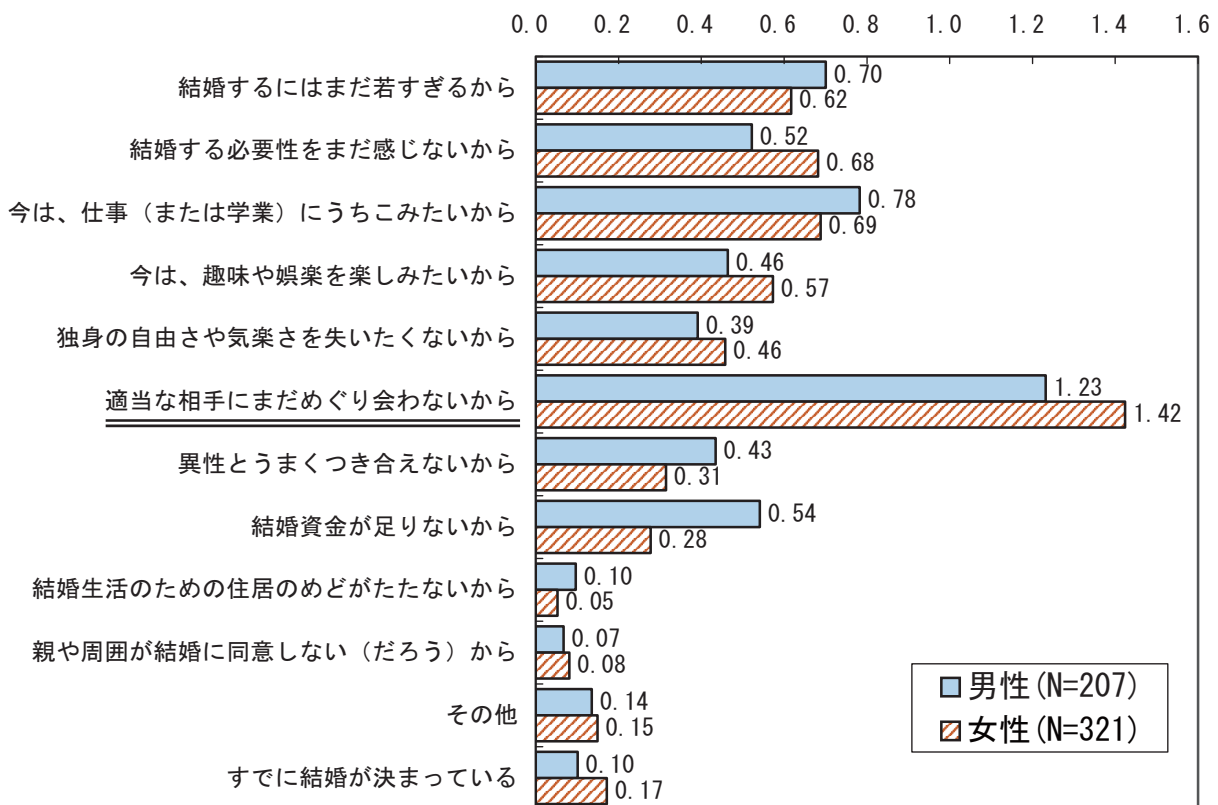
※いずれ結婚するつもりの方の独身者（40歳以上及び年齢不詳除く）

④ 現在独身でいる理由

現在独身でいる理由をみると、男性では「適当な相手にまだめぐり会わないから」が1.23点で最も多く、次いで「今は、仕事（または学業）にうちこみたいから」（0.78点）、「結婚するにはまだ若すぎるから」（0.70点）となっている。

女性では「適当な相手にまだめぐり会わないから」が1.42点で最も多く、次いで「今は、仕事（または学業）にうちこみたいから」（0.69点）、「結婚する必要性をまだ感じないから」（0.68点）となっている。

【図表6-4-1 現在独身でいる理由】(あてはまる理由を3つ選択)

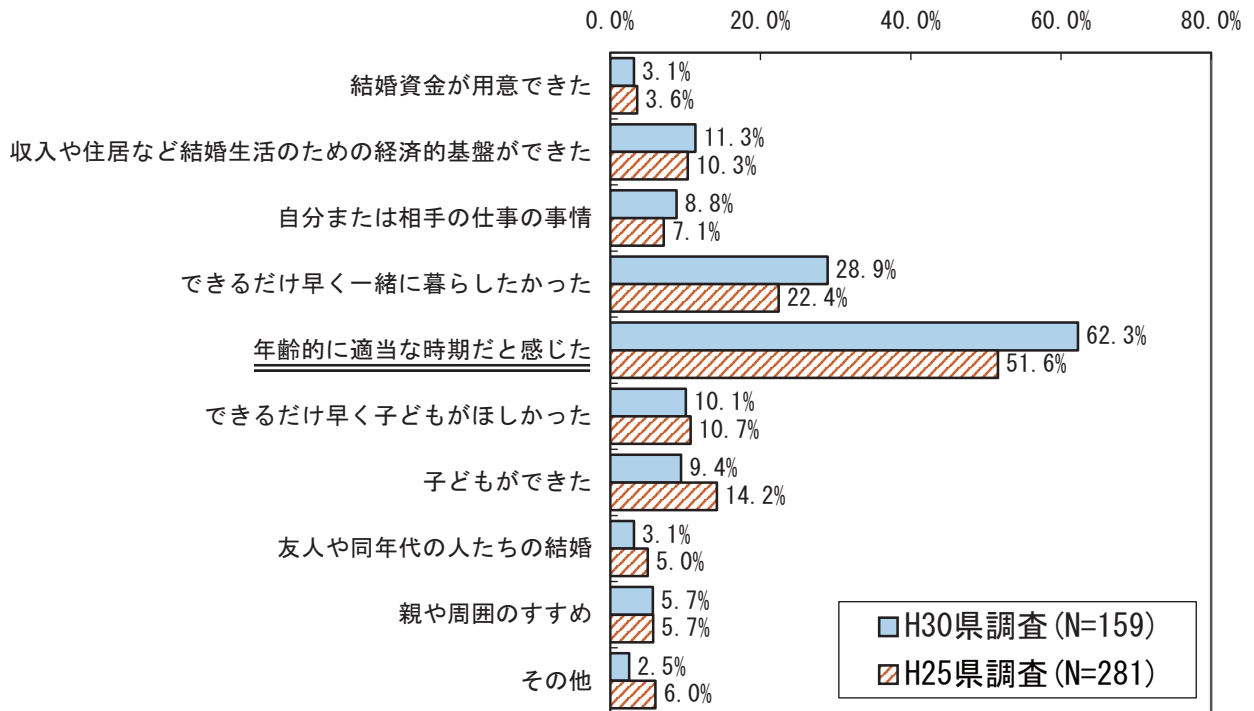


※結婚の意思があり、結婚経験のない方について、最大の理由＝3点、第二の理由＝2点、第三の理由＝1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした。

⑤ 夫婦が結婚を決めたきっかけ

④の独身者が現在独身でいる理由は、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が男女とも最も多いが、夫婦が結婚を決めたきっかけは、2位の「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」(28.9%)を大きく上回り、「年齢的に適当な時期だと感じた」が62.3%で最も多い。

【図表6-5-1 結婚を決めた直接のきっかけ】(あてはまる選択肢を2つ選択)

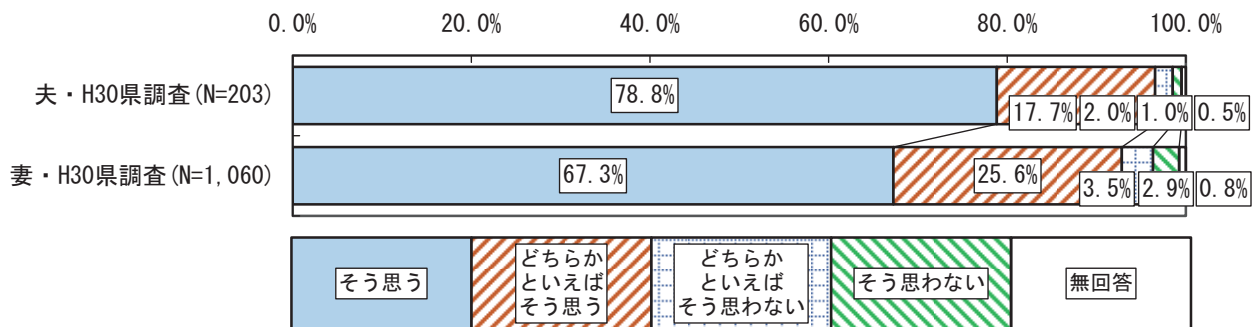


※初婚同士、結婚5年以内

⑥ 結婚してよかったと思うか

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、夫では96.5%、妻では92.9%となっており、9割以上が結婚してよかったと考えている。

【図表6-6-1 結婚してよかったと思う】

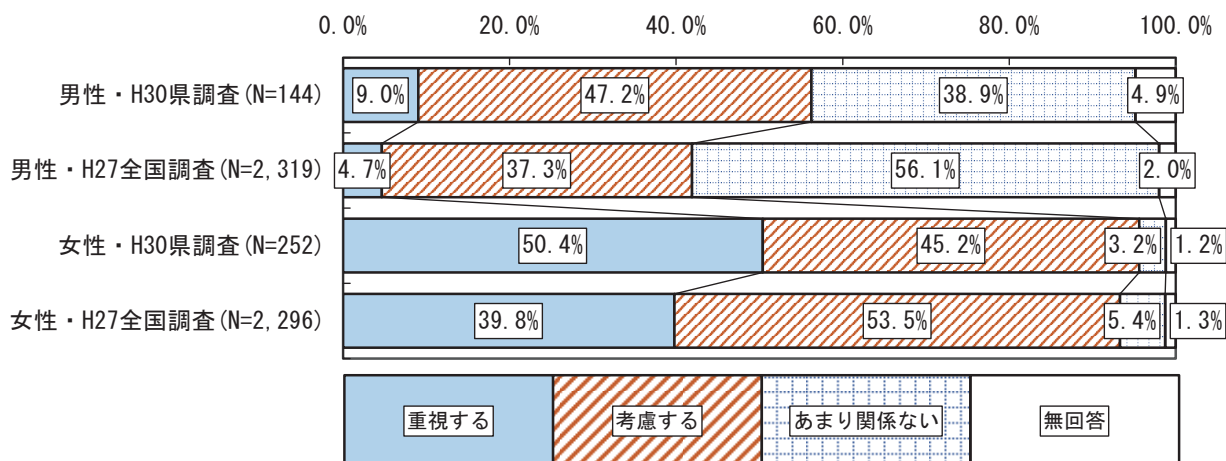


※回答者全数

⑦ 独身者が結婚相手を決める際に重視すること

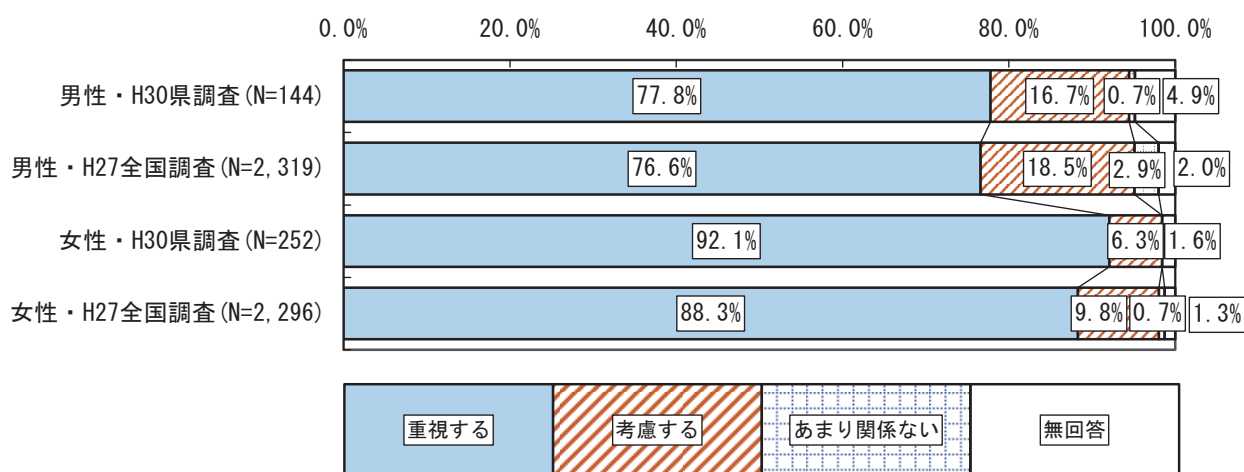
「結婚相手を決める際に重視すること」を奈良県と全国で比較すると、女性では、全国より「相手の経済力」を重視し、「家事・育児に対する能力や姿勢」について重視する人が少ない。「相手の性格」については男女ともほぼ同程度である。

【図表6-7-1 結婚相手を決める際に重視すること ①相手の経済力】



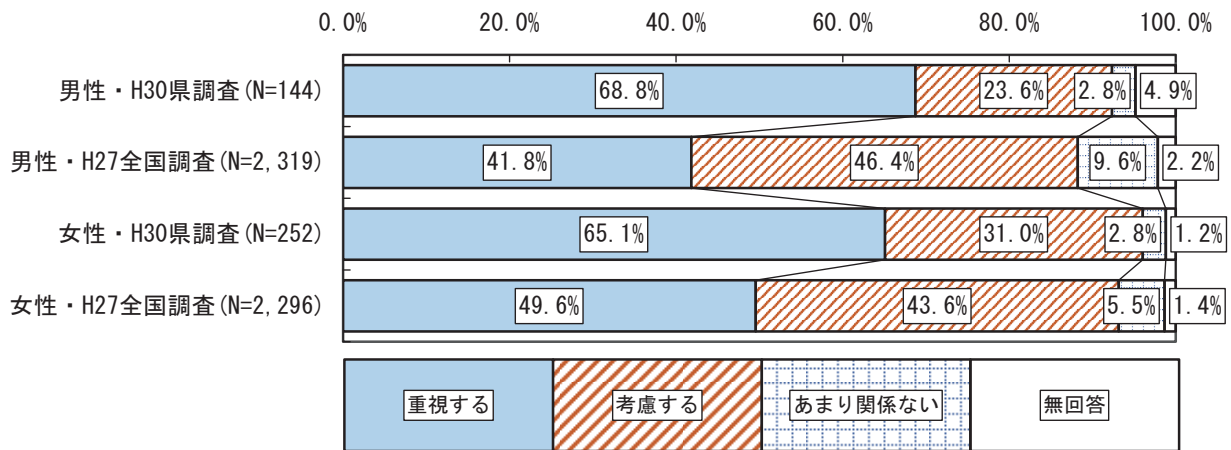
※いずれ結婚するつもりの方の18～34歳の未婚者

【図表6-7-2 結婚相手を決める際に重視すること ②相手の性格】



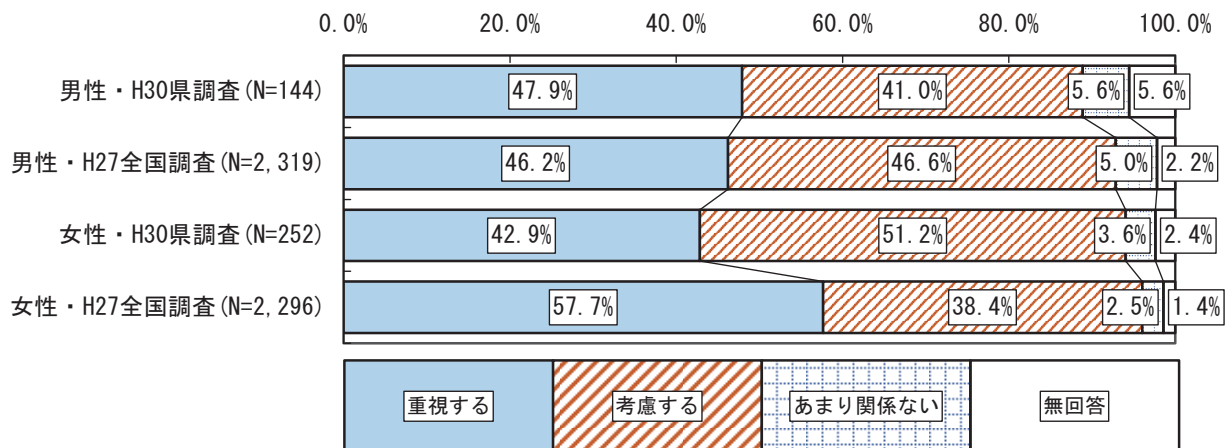
※いずれ結婚するつもりの方の18～34歳の未婚者

【図表6-7-3 結婚相手を決める際に重視すること ③自分の仕事や生き方に対する理解と協力】



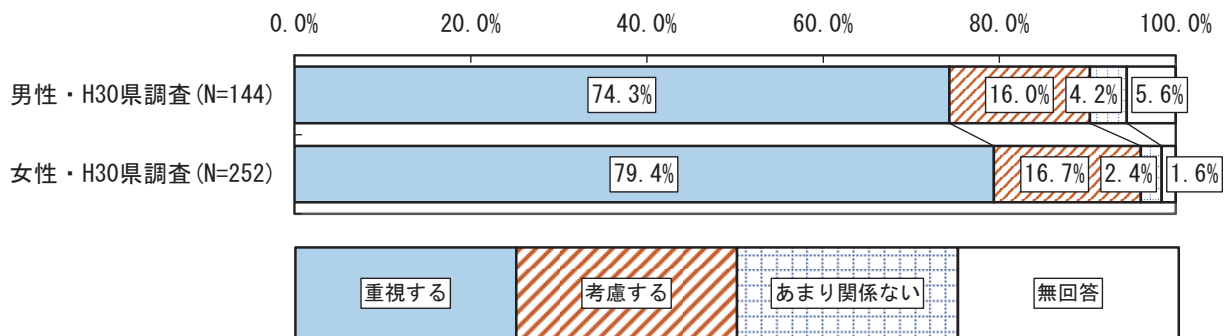
※いずれ結婚するつもりの方の18～34歳の未婚者
 ※全国調査の質問内容は「自分の仕事に対する理解と協力」

【図表6-7-4 結婚相手を決める際に重視すること ④家事・育児に対する能力や姿勢】



※いずれ結婚するつもりの方の18～34歳の未婚者

【図表6-7-5 結婚相手を決める際に重視すること ⑤価値観が合うこと】



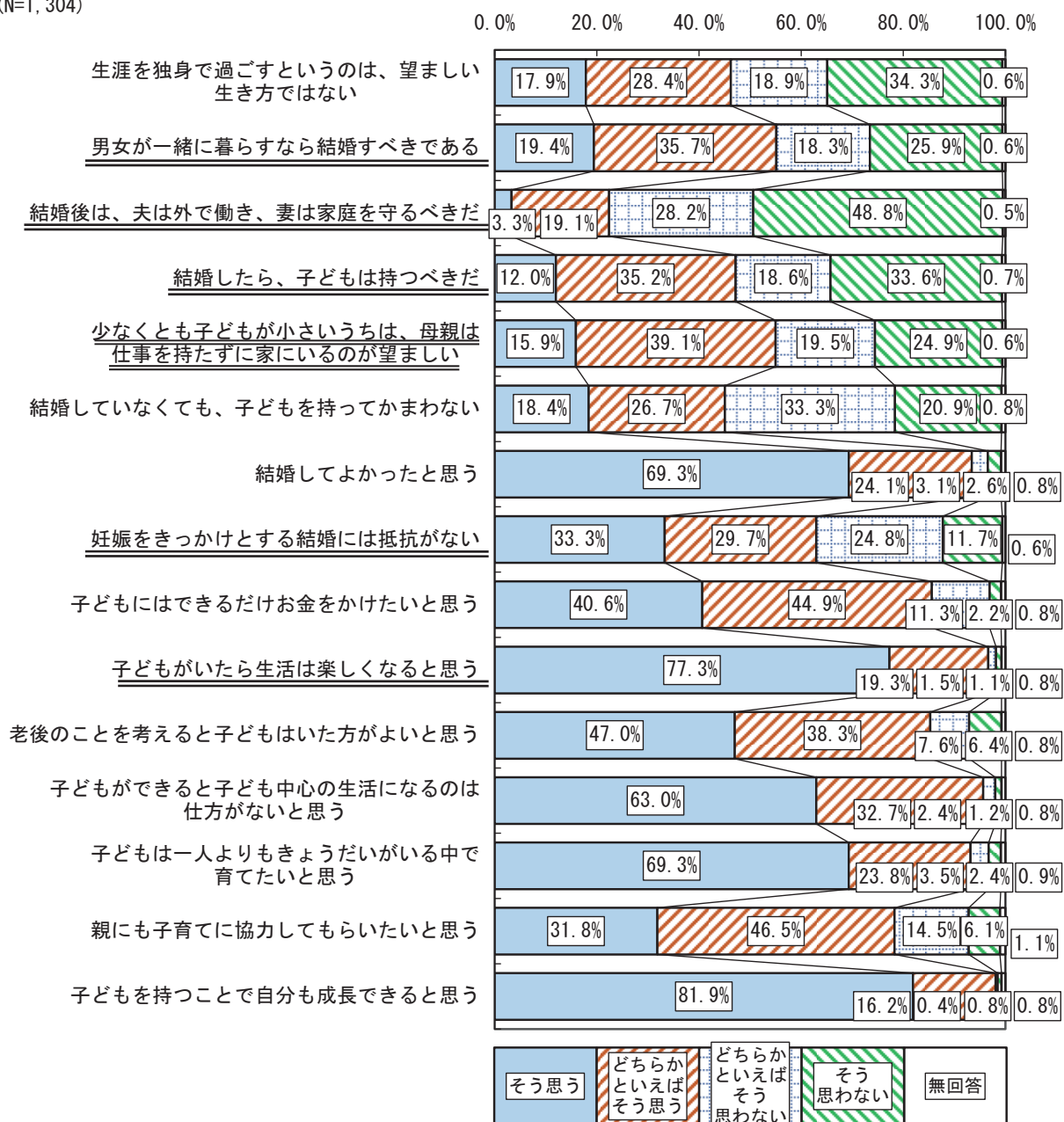
※いずれ結婚するつもりの方の18～34歳の未婚者

◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆ 「既婚者と独身者の結婚・子育てに関する意識の違い」
清水益治氏（帝塚山大学現代生活学部こども学科教授）

下記の図表6-8-1（夫婦調査）・次ページの図表6-8-2（独身者調査）の、「男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである」「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」「結婚したら、子どもは持つべきだ」「少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」などの固定的性別役割分担意識等に対して、「そう思う」の割合は、夫婦より独身者の方が高く、また「妊娠をきっかけとする結婚には抵抗がない」に対して、「そう思わない」の割合も、独身者の方が高い。このことから、独身者は、夫婦より保守的な傾向がみられることが明らかになった。（次ページに続く）

【図表6-8-1 夫婦調査 結婚・家族・子育てに関する意識】

(N=1,304)



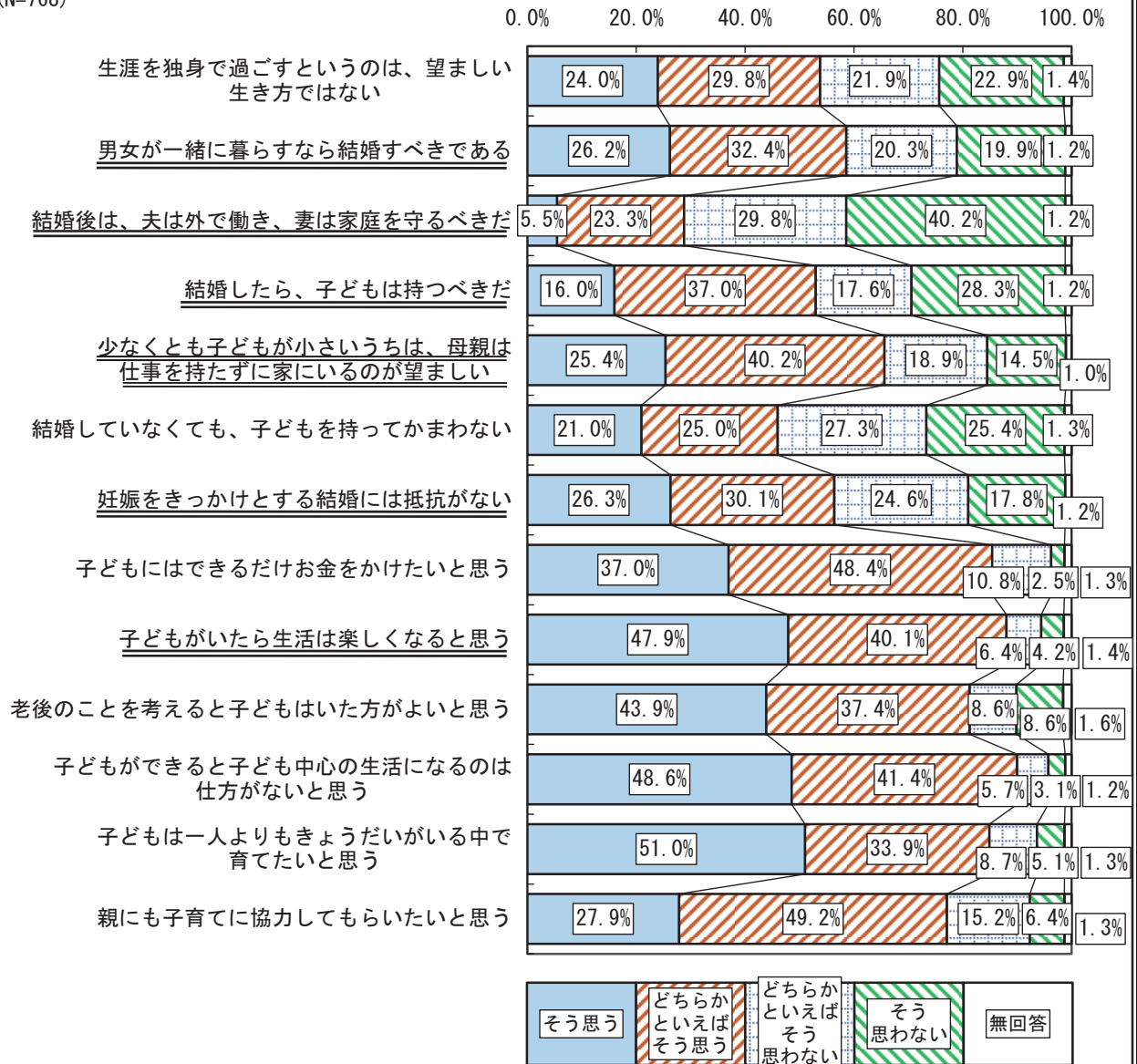
※回答者全数

(前ページより)

また、「子どもがいたら生活が楽しくなると思う」に対して、「そう思う」の割合は夫婦では、77.3%と高いが、独身者は、47.9%と低かった。奈良県の独身者に対しては、固定的性別役割分担意識の払拭や、子どものいる生活の楽しさを独身者がイメージできるような取組を社会に出る前から伝えることが望まれる。

【図表6-8-2 独身者 結婚・家族・子育てに関する意識】

(N=768)



※回答者全数

◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆ 「男性の意識改革の必要性」

小崎恭弘氏（大阪教育大学教育学部准教授）

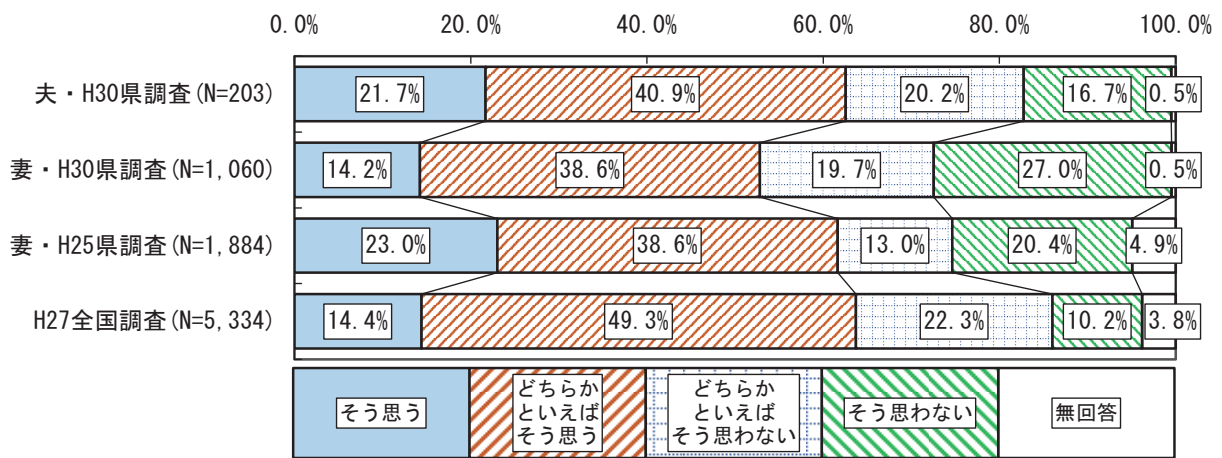
下記図表6-8-3（夫婦調査）・図表6-8-4（独身者調査）の「少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」について、この設問は、いわゆる三歳児神話（幼子は母の手で育てる）に関する設問であるが、夫婦調査では、妻、夫ともに半数以上の肯定群があり、特に夫に関しては6割に至る。さらに独身者調査では、前回調査より減っているが、男女とも夫婦調査より高い結果となっている。

子育ての多様化が求められ、また母親の育児の負担から起きる様々な問題（児童虐待、育児不安、産後うつ等）を考えると、このような強固な三歳児神話のありようは、社会全体としては決して良い影響ばかりではない。

このような視点で考えると、奈良県は「固定的性別役割分担意識」が全国一高いというデータもあり、子育て、夫婦関係に関しては保守的傾向が見受けられ、特に男性の意識において顕著である。ここには「男性＝仕事・女性＝家事、育児」という、昭和の高度経済成長期に出来上がった強固な社会的な公式が深く根付いている。

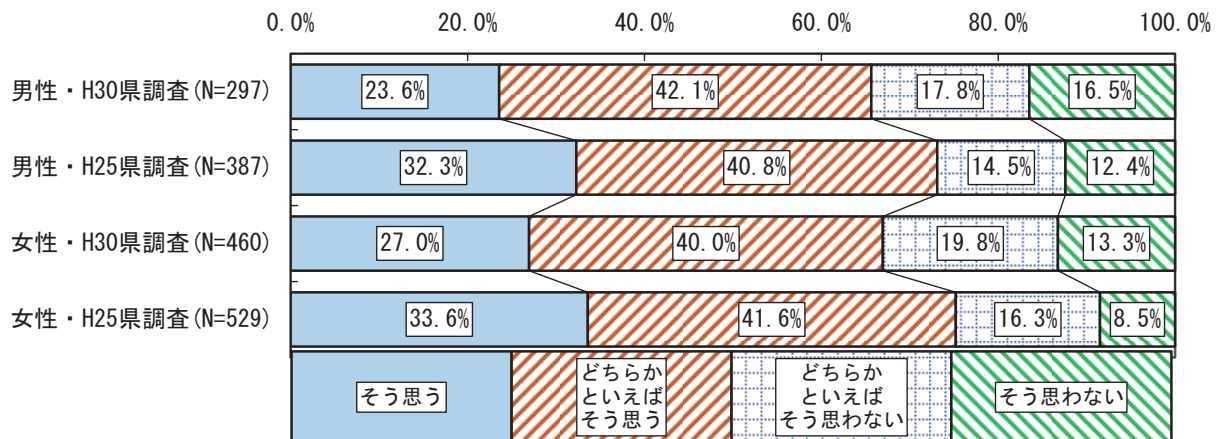
これらの意識が、子育てや夫婦のあり方に大きく影響を及ぼしていると考ええる。奈良県全体の男女共同参画意識の変革について、例えば、教育における男女共同参画の推進であったり、若年層の子育てやライフデザインの意識改革の取り組みなど、様々な部署において、取り組む必要性を感じる。

【図表6-8-3 夫婦調査「少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」に対する考え】



※回答者全数

【図表6-8-4 独身者・男女別「少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」に対する考え】



※回答者全数（無回答を除く）